

# まがしき唄が聞こえる

## ~ふる里の唄特集~



青年会の集落対抗で天ヶ沢が優勝した時の写真（昭和5年頃）

「故きをたずねて新しきを知る」と、いいます。今月の公民館報は先人の人達が郷土に対する思いを託した昔の歌を紹介いたします。

歌を口ずさんだり、歌詞を読み返すことで、懐かしさを感じたり、自分の心の中で新発見をしていただければ幸いです。

### 天ヶ沢応援歌

一 縁深き、二 本松  
それに添えたる、天ヶ澤  
獲つて帰れ、優勝旗  
手に手を取と  
二 本の松も、今もなお  
太古遠き、我が家は  
好い和して、健やかに  
平和の煙りをうち廢き  
郷土の棟に、燃ゆるなり

三 一  
縁深き、二 本松  
それに添えたる、天ヶ澤  
獲つて帰れ、優勝旗  
手に手を取と  
二 本の松も、今もなお  
太古遠き、我が家は  
好い和して、健やかに  
平和の煙りをうち廢き  
郷土の棟に、燃ゆるなり

天ヶ沢の応援歌は、僕達が小学生の頃すでに存在しておらず、青年の運動会で歌った覚えがある。

当時、天ヶ沢だけではなく矢代田、鎌倉の集落にもすでに存在し聞くことができた。

当時、青年会による陸上競技と相撲大会が盛んであり、それらの応援に歌われていた。

天ヶ沢の現在の応援歌は当時のものでは無く、子供の頃歌つた記憶をたどり直したものであり、当時の応援歌と異なるところも各所にあると思われるが、内容的に大きな違いは無いと思う。

歌の中の二本松の由来は、

当時の所有者は高野家所有であつたと思う。何百年か育てられた大きな二本の松がそびえており、根元はほぼ接して、通称夫婦（めおと）松とも呼ばれていた。

・「八十の田舎」とは、その八十戸であった。

当時の天ヶ沢の戸数は、ほんの少しも鎌倉負けたなら

電信柱に花が咲く

今日の勝負は勝つち勝ち（と繰り返す）

# 小須戸公民館報

発行 小須戸町中央公民館  
〒956-0101  
新潟県中蒲原郡小須戸町  
大字小須戸117番地  
TEL (0250) 38-2234  
FAX (0250) 38-3041  
編集 公民館報編集委員会

### ちょこっと一言 (195)

がんばってますね

ほほえみ作業所の皆さん

昨年から、ほほえみ作

業所の子ども達が、特別

養護老人ホーム「蒼丘の

里」の廊下清掃を引き受

け、土日祝日を除く毎日、

交代でやっています。

この仕事によつて、少

額ではあるが、作業所の

子ども達の収益となるよ

うに図らつていただいた

のです。

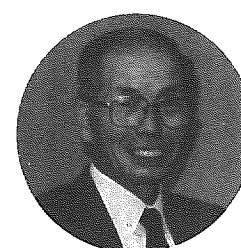
そこで、この子ども達

への支援をしようと、町

の皆さんに呼びかけまし

新町三

馬場 高志さん



豊かではなく、くず米を混ぜたり魚の一切れでさえも、それはそれは、たいそうなく馳走だった。

横川浜在住の野崎タツさん（九十四歳）は明治四十三年生まれ。子守唄の思い出話を語つてもらいました。

横水尋常小学校の四年生（十歳位）頃に妹の子守りをしてながら学校へ通い、唄つていたことを思い出します。

当時、親は子どもがいる仕事にならないから年上の子が、一つか二つの子を背負って学校に通っていました。

授業中に赤ん坊が愚図つたり、泣いたりすれば教室から出てゆすりながら、子守唄を唄つたそうです。

当時を知っている人が少なくなつてゐる現在、方言交じりの子守唄を聞くことはなくなつていくのでしょうか。

夕闇が訪れる頃、浮き立つような太鼓の音が村中に響き渡ると、勝てば勝つほど力が入りりますねえ」と、この歌の思ひ入れを聞かせてくれた同地区在住の八木キエさん。

今でも「山の手分館の運動会になると鎌倉の応援団員が仮装をしたりして場を盛り上げ、チームが一丸となつてこの鎌倉の応援歌を精一杯、歌い続けています。

なお、鎌倉にはこの応援歌の他にも、鈴の音を聞かせながら踊る「鈴踊り」の唄といふ地元では名物的な芸能もあるそうです。

夕闇が訪れる頃、浮き立つような太鼓の音が村中に響き渡ると、勝てば勝つほど力が入りりますねえ」と、この歌の思ひ入れを聞かせてくれた同地区在住の八木キエさん。

今でも「山の手分館の運動会」となると鎌倉の応援団員が仮装をしたりして場を盛り上げ、チームが一丸となつてこの鎌倉の応援歌を精一杯、歌い続けています。

なお、鎌倉にはこの応援歌の他にも、鈴の音を聞かせながら踊る「鈴踊り」の唄といふ地元では名物的な芸能もあるそうです。

夕闇が訪れる頃、浮き立つような太鼓の音が村中に響き渡ると、勝てば勝つほど力が入りりますねえ」と、この歌の思ひ入れを聞かせてくれた同地区在住の八木キエさん。

今でも「山の手分館の運動会」となると鎌倉の応援団員が仮装をしたりして場を盛り上げ、チームが一丸となつてこの鎌倉の応援歌を精一杯、歌い続けています。

夕闇が訪れる頃、浮き立つような太鼓の音が村中に響き渡ると、勝てば勝つほど力が入りりますねえ」と、この歌の思ひ

